

2013年8月15日

日本家族看護学会国際交流委員会

日本家族看護学会国際交流委員会主催の“第11回国際家族看護学会議への参加ツアー” に関するアンケート調査結果報告書

2013年に実施した“第11回国際家族看護学会議への参加ツアー”の参加者を対象として、1) 今回の参加ツアーの課題を明らかにし、2) 2015年にブラジル・サンパウロで開催予定の第12回国際家族看護学会議への参加ツアーの企画に意見を反映させることを目的として、アンケート調査を実施したので報告する。なお、第11回国際家族看護学会議に関する報告は、学会誌『家族看護学研究、19(1)』に掲載予定である。

1. 調査方法

参加ツアーの参加者27名のうち、国際交流委員3名を除く24名を対象として、自作の自記式質問紙を用いた無記名のアンケート調査を実施した。アンケート用紙は、切手を貼用した返信用封筒とともに2013年7月15日に郵送し、自宅で記入後、2013年8月14日までに回収した。

2. アンケート内容

アンケートは、回答選択型の質問7項目と2項目の自由記載欄(表1参照)から構成した。回答選択肢型の7項目(表1の項目番号1)~7))に対しては、“良い”“普通”“悪い”の3段階で回答してもらった。

表1. 回答選択肢型の質問項目

-
- 1) 利用ホテルについて
 - 2) 懇親晚餐会について
 - 3) 観光(モールオブアメリカ観光, オプショナルツアー)について
 - 4) 第11回国際家族看護学会議について
 - 5) 旅行代金について
 - 6) 旅行会社, 現地の日本人ガイドの対応について
 - 7) 国際交流委員会委員の対応について
 - 8) ツアーの感想, 意見(自由記載)
 - 9) 今後のツアー, 国際交流委員会への要望(自由記載)
-

3. 調査結果

対象者 24 名中 16 名から回答があり，回収率は 66.7%であった。

1) 利用ホテルについて

“普通”と回答した 1 名を除く全員が“良い”と回答した。学会場となったホテル，あるいは学会場とスカイウェイ（どんな天候でも快適にビル間を行き来できるガラス張りの高架歩道システム）で連結しているホテルを利用したことから，好立地であり，利用ホテルに対する満足度が高い結果となった。

2) 懇親晚餐会について

2 名（1 名が“普通”，1 名が無回答）を除く全員が“良い”と回答した。懇親晚餐会では家族看護学のエキスパート 8 名を招待し，また，現地の日本人ガイドも参加して，英語が苦手な参加者でも安心して楽しむ，参加者間の親睦が深まるような内容を国際交流委員会が企画した。とくに日本のお土産品や旅行グッズが景品のビンゴゲームは好評であった。

3) 観光（モールオブアメリカ観光，オプションツアー）について

約 8 割の対象者が“良い”と回答し，“普通”と回答した対象者とあわせると，9 割以上の対象者が“良い”もしくは“普通”と回答した。アメリカ最大のエンターテイメント&ショッピングセンターであるモールオブアメリカの観光はショッピングが中心であった。個人的に，後日，再度モールオブアメリカを訪れたツアー参加者もいるほど充実した品揃えであった。オプションツアーでは，ミシシッピ川のクルーズとミネソタで一番最初に開拓者が入植した場所である Stillwater の散策を企画した。ツアーガイドは，現地在住の日本人であり安心感があった。

4) 第 11 回国際家族看護学会議について

“普通”と回答した 1 名を除く全員が“良い”と回答した。基調講演の内容はパソコンやモバイルデバイス（iPad, iPhone など）から PowerPoint のファイル（英語版と日本語版の両方）をリアルタイムで見ることができ，誰でも理解しやすいように工夫されていた。国際交流委員会では，この会議に先立って，登録する演題の翻訳サービス，第 11 回国際家族看護学会議への登録支援などを実施し，会員の便宜を図った。

5) 旅行代金について

約 4 割の対象者が“良い”と回答し，“普通”と回答した対象者とあわせると全員が“良い”もしくは“普通”と回答した。今後，ツアー参加者数が増加すれば旅行代金のディスカウントができる可能性はあるが，今回の会議はアメリカで開催されたため，個人手配した学会員も多く存在したと思われる。

6) 旅行会社，現地の日本人ガイドの対応について

約半数が“良い”と回答し，“普通”と回答した対象者とあわせると 9 割以上の対象者が“良い”もしくは“普通”と回答した。日本人ガイドによる空港からホテルまでの道案内や，懇親晚餐会や

オプションツアーへの同行は対象者に安心感を与えたと考えられるが、旅行会社の添乗員が同行したわけではないため、部分的な支援にとどまった。

7) 国際交流委員会委員の対応について

“普通”と回答した2名を除く全員が“良い”と回答した。国際交流委員会では、参加ツアーに関する案内として現地情報を事前に配信したり、会議に先立って、登録する演題の翻訳サービス、第11回国際家族看護学会議への登録（国際家族看護学会への会員登録も含む）支援などを実施し、会員の便宜を図った。

また、日本家族看護学会のプロモーション活動としてブースを出展し、英語版リーフレット、学術集会の情報、学会誌の題目情報、Call for papersと英語版投稿規定、論文別刷り（国際交流委員会の過去の活動）、日本家族看護学会のオリジナルクリアーホルダーなどを配布した（それぞれ約300部配布）。その他、家族看護のエキスパート8名との懇親晚餐会の機会を設けるなど、日本家族看護学会会員の国際交流を図った。日本各地からミネアポリスまでの長旅であったが、往路、復路、会議中に怪我や事故などはなく、参加ツアーは無事に終了した。

8) ツアーの感想、意見

「安心して楽しく参加できた」「ツアー参加者と交流できた」などの意見が大半であった。その他、「ツアー申し込み後に返信があると良かった」「第11回国際家族看護学会議について、抄録集があると良かった」「空港で買い物をする時間が、もう少しあると良かった」「懇親晚餐会で国内外の研究者と交流がもて良かった」などの意見があった。

9) 今後のツアー、国際交流委員会への要望

「次回も参加したい」「ツアーを企画してほしい」などの意見が多くあった。その他、「現地の病院見学などが含まれると良い」「ホテルの室内でインターネットが無料で使用できると良い」「より安価なツアーを設定してほしい」「次回はブラジルなので、安全・安楽なツアーを重視したツアーにしていきたい」などの意見があった。

4. まとめ

アンケート調査結果より、全項目において“悪い”と回答した参加者は存在せず、参加ツアーは概ね好評であったといえる。とくに国内外の研究者との交流が深化した懇親晚餐会、オプションツアーなど、ツアー利用者への特別サービスは好評であったため、第12回国際家族看護学会議参加ツアーにおいてもこのような機会を設定したいと考える。また、ブラジル・サンパウロで開催される学会参加については、旅行会社の添乗員に同行してもらうなど、参加者がより安全に安心して楽しめるようなツアーを企画したいと考える。課題が残った旅行代金については、ツアー参加者の増加に努め、旅行会社と相談しながら、より安価な料金設定が可能になる方法を検討したいと考える。

(以上)